

求められる機能 — 周辺環境より —

資料5-2

県内類似施設

- 最高峰のプロスポーツを誘致できる施設が市内にない、観戦する機会がない。
- 人気定着したアーティスト等の興行を取り込める施設が市内にない、エンタメでは大規模イベントの実績がない。

	2,000～3,000席	3,000～5,000席	5,000～7,500席	7,500～10,000席
スポーツ		●このはなアリーナ 最大収容4,000席		●浜松アリーナ 最大収容7,600席
エンタメ	●市民文化会館 ●マリナート ほか			●エコパアリーナ 最大収容10,000人
展示・式典		●グランシップ 最大収容4,626席		●ツインメッセ北館 最大収容6,000人 ●ツインメッセ南館 最大収容6,500人

B2リーグ ライセンス基準: 3,000～5,000席
 B1リーグ ライセンス基準: 5,000～7,500席

エンタメ: ミュージカル/演劇・地元楽団・団体利用等 | 流行りのアーティスト、大規模なライブの実績は少ないもののブレイクして人気定着したアーティスト等 | 大規模な全国ツアーを開催できる著名アーティスト等

1

求められる機能 — プロジェクトシミュレーションより —

- 民間事業者が想定した複数の施設規模、事業手法について、採算性を予測するプロジェクトシミュレーションを実施

パターン	1-1	1-2	2-1	2-2	3
施設規模	音楽イベント -	6,500席程度	8,000席程度	9,000席程度	10,000席程度
	スポーツ観戦 5,000席程度	5,000席程度	7,000席程度	8,000席程度	9,000席程度
概要	用途 プロスポーツ観戦・市民利用	音楽イベント、プロスポーツ観戦、エンタメイベントを想定			
	事業者ヒアリングの結果	興行需要 △	△	◎	◎
		参画意欲 ○	△	○	×
		特徴 スポーツ興行のみを想定	音楽興行では選ばれにくい	音楽興行で最も選ばれやすい	2-1と需要は同程度
					過大スペックだが可能性は有
施設整備費を含めた採算	×		×		×
維持管理・運営時の採算	×		○		○
経済波及効果	●施設規模が大きくなるにつれ、経済波及効果も大きくなることを確認				

2

事業者からの主な意見（施設規模）

●令和2年度

（ヒアリング・公募型サウンディング市場調査）

<実施期間> R2.5～R2.12

<参加企業> ヒアリング:37社

（商社、不動産・デベロッパー、プロスポーツ関連、プロモーター、エンタメ関連事業者、音楽関連会社、ゼネコン、設計、リース、IT 事業者、広告代理店、MICE 関連、運営事業者、地元企業・団体）

公募型サウンディング市場調査:22社

（ゼネコン、リース、商社、建設、設計、運営、維持管理、金融、スポーツ団体、その他）

2,000～5,000 席程度	5,000 席程度	5,000～8,000 席程度	8,000 席程度	10,000 席程度
	<p>【肯定的な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5,000 人規模がアーティストも分厚い層と考え、スポーツ興行でも 5,000 は最低限必要。10,000 人規模は興行主もリスクが大きい、2,000～3,000 クラスのアーティストは多く、その中間をつなぐ需要があると想定。 ・愛知県新体育館ができた場合、静岡の需要は取られてしまう可能性があり、5,000 席程度の需要を狙うことも考えられ、ポテンシャルはあると想定している。 ・5,000 規模はスイートスポットと想定。 ・規模が大きくなると負担も大きくなるため、5,000 席規模をコアなターゲットとしている。ホールで開催している 2～3,000 席のコンテンツを 5,000 席規模で開催する可能性も想定している。 ・e-sports は 5,000 席規模であれば、興行として成り立つと考えている。設備は持ち込み想定としているが、アリーナ側では、通信環境（回線）が必須となる。 ・スポーツ興行だけなら 5,000 席規模でもよい。 	<p>【肯定的な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5,000～7,000 人が集客規模のアーティストも当然存在しており、この層をターゲットに選ばれるアリーナを目指していく。 ・5,000～7,000 席規模の、音楽ライブ利用 8割、プロスポーツ興行 2 割の高稼働アリーナを検討。この規模感のアリーナが全国的に特に少ないと考えている。 ・スポーツ利用時 5,000 席を軸に、音楽ライブ時 6,300～7,000 人収容の規模の、U 字型の座席配置を想定。 	<p>【肯定的な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最低でも 8,000 席、敷地の 1/2 程度の規模のアリーナと想定している。 ・8,000 人規模を想定。10,000 人まで求めるより、e-sports の取込や 5G への対応など、設備で差をつけたほうが選ばれるアリーナを目指せるのではないかと。 ・8,000 以上のキャパシティの需要はあるものと想定し、最低限必要。キャパシティが大きければ、東京・横浜、名古屋等から誘客することは可能であるが、静岡ならではのオリジナルのフェスなどのイベントをどの程度作れるかも課題である。 ・8,000 人以上。中途半端な人数だと浜松アリーナのようにコンサートはほとんど呼べないのではないかと。 ・エコパの最大収容人数は 10,000 人となっているが、実質 7～8,000 人程度。収容人数 8,000 人規模で作るのなら、エコパと競合が可能。 	<p>【肯定的な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・固定席 8,000 席、パイプ椅子を並べて 10,000 席程度のキャパでも良い。 ・エコパアリーナや浜松アリーナのイベント利用が少ないのは、10,000 席規模を確保できないためであり、固定席・可動席で 10,000 席以上を確保することが重要。 ・ツアーには、劇場サイズ（2,000 等）、アリーナサイズのパッケージがあるが、5,000 規模はツアーの枠にはまらず、7,000～8,000 規模でもかなり厳しいと想定する。 ・キャパシティでは、10,000 人収容のアリーナも可能だと考える。

2,000～5000 席程度	5,000 席程度	5,000～8,000 席程度	8,000 席程度	10,000 席程度
<p>【否定的な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内のコンサートは、2,000人以下が6～7割を占めており、演歌もフォークもこのカテゴリーに入るが、ステージ付きの劇場型であり、スポーツと共存しない。 	<p>【否定的な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際にツアーを組む類似施設が少なく、5,000 規模はそれなりにアーティストに実力がないと成立しないため、やってみないとわからない面もある。 大規模アリーナの目線では 5,000 席では回収出来ないとする事業者が多いと想定する。 5,000人規模は、これから伸びていくグループの一時的な需要があるものの、通過点となり、同サイズのアーティストがなかなか定着しないと想定する。 音楽ライブも扱う場合、動員数×チケット売上が単純に興行主の利益につながるので、5,000 席では少ないことが懸念される。 		<p>【否定的な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 8000 人規模のアリーナで、エンタメ系の誘致を進めようとして、10000 人規模以上のアリーナに興行を引っ張られた場合、どれだけ誘致できるかが不明。 8,000規模では中途半端ではないかと想定する。 8,000 席では付帯施設が併設できず、民間収益施設の余剰スペースが生まれないため、採算上、効率が良くない。 8000～10000 人規模を埋められるトップアーティストは一握りであること、プロモーターが安定した稼働を保障するものではないことから、高い稼働率の維持や平日の賑わいをもたらすことは難しいと想定している。 	<p>【否定的な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> アリーナツアーを計画する場合、10000 人規模で3日、東京・名古屋・大阪・福岡で検討する。静岡では、この市場で優位性を出すのは困難。

●令和3年度（ヒアリング） <実施期間> R3.7
<参加企業> 24 社（商社、不動産・デベロッパー、プロスポーツ関連、プロモーター、エンタメ関連事業者等）

2,000～5000 席程度	5,000 席程度	5,000～8,000 席程度	8,000 席程度	10,000 席程度
		<p>【肯定的な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 7,000～8000 席規模で、最大で 8,000 人が何とか入りますくらいの規模感がよいのではないかと。 <p>【否定的な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽興行 6,500 席はエコパで予約が取れなかったときに検討するようなレベルのイメージ。 	<p>【肯定的な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> エコパアリーナとの競合について、8,000 人以上かつ搬入路の使い勝手の工夫が重要。 大物アーティストについては 8,000 席規模がマストとなる。 	

●令和4年度（公募型サウンディング市場調査）

<実施期間> R4.6～R4.7

<参加企業> 20社（スポーツ・不動産・デベロッパー・運営・MICE 関連・ゼネコン・設計・維持管理・建設・商社）

2,000～5,000 席程度	5,000 席程度	5,000～8,000 席程度	8,000 席程度	10,000 席程度
<p>【肯定的な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きすぎると満員にできるイベントに限られ、回転率が下がる。3,000～5,000 席のほうが、回転率が上がり運営しやすいという意見もある。 ・興行サイドからすると、5,000 席規模になると設営の負担が大きくなるため、2,000～3,000 席のホールか、もっと人数の入るアリーナが選ばれる。 	<p>【肯定的な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5,000 席程度なら可能と考えている。 ・5,000 席以上ないとバスケットは厳しい。 <p>【否定的な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスケットの話もあり、今後各地で5,000 席規模のアリーナは飽和する可能性がある。 ・5,000 席はニーズがない。 	<p>【肯定的な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中規模アリーナで、固定席5,000 席、エンタメ7,000～8,000 席を考えている。 ・ゼビオアリーナ仙台（音楽興行6,000 人）くらいの規模でもコンサートは開催されているため（2日連続開催）、問題ないのではないかと。 	<p>【肯定的な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼビオアリーナ仙台（6,000 人）とぴあアリーナ（12,141 人）の中間の規模を考えている。メジャーなアーティストを呼びたいか、コアなアーティスト（ユーチューバーなど）のイベントでもよいか、市のコンセプトによって、規模も変わってくる。 ・規模が大きすぎると集客が難しいため、8,000～10,000 席は妥当だと考える。 ・8,000 席以上ないと大物アーティストはなかなか呼べず、8,000～10,000 席でなければ運営が成り立たない。 <p>【否定的な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8,000 席以上の場合、収益施設は難しい。 ・千葉ジェッツでも船橋アリーナ（4,368 席）が満員になるくらいなので、バスケット想定だと8,000 席以上は広すぎるのではないかと。 	<p>【肯定的な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンサート利用の場合、最低 8,000 人収容で、可能であればエコパアリーナと同規模の 10,000 人収容が望ましい。 ・活性化を考えると、中途半端な大きさよりは、10,000 席くらいの規模がよいと考える。 ・バスケット等からすると過剰だが、8,100 席（できればカタログ上では10,000 席）くらいは欲しい ・最大でも10,000 席に留めた方がよい。 ・プロモーターからは8,500 席以上は欲しいという話を聞いている。 ・最低でもエコパと同席数は必要。10,000 席で、コンサートで 8,000 席になるようにするのが良い。 ・大規模イベント・興行開催が中心のアリーナであれば 10,000 人は必要と考える。ステージの常設など、設営・解体の手間と時間を短縮または簡素化できる設えなら、さらに誘致しやすくなると思う。 <p>【否定的な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10,000 席だと参画しにくい。 ・席数の規模（例：10,000 席）によっては敷地が狭い

求められる機能 — 防災機能（例） —

さいたまスーパーアリーナ (埼玉県)	あずま総合体育館 (福島県)	沖縄アリーナ (沖縄市)
延床面積： 132,398㎡ 最大収容人数： 約37,000人	延床面積： 2,744㎡ 最大収容人数： 約6,000人	延床面積： 27,711㎡ 最大収容人数： 約10,000人
<p>・東日本大震災及び原発の事故に伴う避難者（約2,500人）を受入れ（H23.3.16～3.31）</p> <p>・県と指定管理者との基本協定書に「防災活動拠点施設維持管理に関する業務」を位置づけており、県と指定管理者が協力して避難所を開設することができた。</p>	<p>・東日本大震災発災時、195日間で延べ約11万人を受入れ</p> <p>・地域防災計画上での位置づけは「避難所」ではなく、避難所の開設や運営に関する規定のない「避難場所」</p> <p>・避難物資の備蓄がなく、事前の避難所運営の準備が十分ではなかったが、指定管理者として取り組んできたスポーツ大会等、大きなイベントの運営経験を発揮し対応</p>	<p>・メインアリーナ 土間コンクリートのため、屋外から車両が乗入れが可能となり、風雨にさらされずに救援物資の仕分けを行い、スムーズな搬入搬出が可能</p> <p>・サブアリーナ 災害時に治療が必要な方のスペースとして、ベッドを約170床設置可能</p> <p>・多目的室 高齢者、妊婦、乳幼児等の災害時要援護者に対し、プライベート空間を配慮できる施設として活用可能</p> <p>・建設地のコザ運動公園は沖縄市の広域避難所に指定され、本施設は上記の機能に加え、避難者への飲食物等の提供も可能な施設として検討されている。</p>

スポーツ庁「スタジアム・アリーナ等の経済的効果・社会的効果の新たな評価手法の開発」より作成

6

求められる機能 — 防災機能（例） —

施設利用者・従業員の安全確保

【静岡市いのちを守る防災・減災の推進に関する条例】

第6条 事業者は、その社会的責任を自覚し、次に掲げる事項を実施することにより、**従業員及び施設利用者の安全の確保**に努めなければならない。

.....

(2) **災害時に必要となる資機材等を備蓄**すること。

.....

(5) **従業員又は施設利用者の帰宅が困難となった場合の滞在場所の確保及び滞在者のために必要となる飲料水、食料、燃料等の物資を備蓄しておくこと。**

.....

想定される防災機能（例）

【支援受入施設】 自衛隊・消防・警察などの受入施設・簡易的な宿泊施設

【緊急物資集積所】 支援物資の置き場所

【市の防災用資機材の保管場所】

【その他】 災害時の受水槽の活用など

7